

<インターゼミ 多摩学班 中間報告>

2018 多摩学

-100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは-

学部生：遠藤、小川、川上、馬場、山口、神尾

大学院生、OB：山口、菊永

教職員：丹下先生、荻野先生、初見先生、松井

本日の報告内容

- 1 多摩学2018のリサーチクエスト
- 2 4つの視点からの調査
- 3 今後のスケジュールとまとめ
- 4 文献リスト

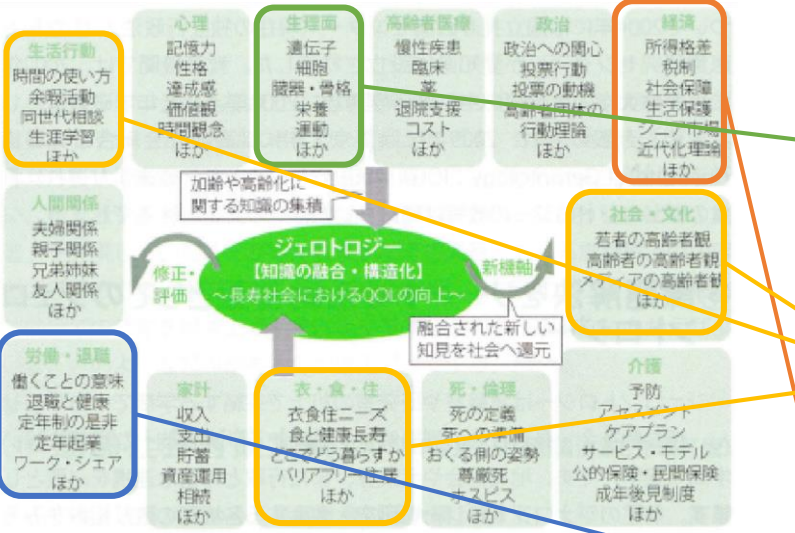
1. 多摩学2018の リサーチクエスチョン

100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは

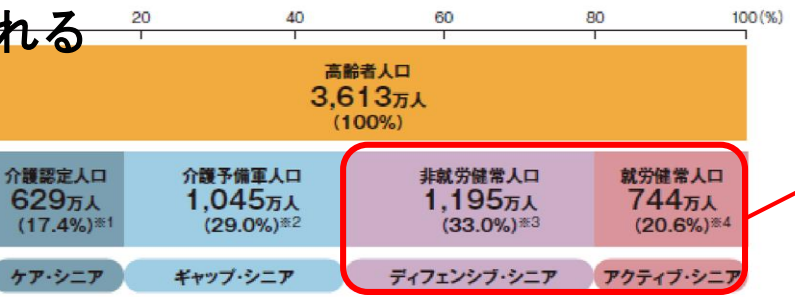
多摩地域特徴は
「高学歴アクティブシニアが多い」

4つの視点でのリサーチを計画

ジェロントロジー領域は幅広い為、
調査ターゲットの絞り込みを行う



シニア層も一様ではなく、様々なニーズを持つカテゴリに分かれる



多摩学2018

フィジカル班

コミュニティ班

ワーク班

ファイナンス班

高齢社会社会に向けた政府の取組み



都市近郊型高齢社会に適した施策検討につなげる

2. 視点 1: フィジカルの側面から

フィジカル班のリサーチクエスト

シニアの方々が
身体を健康を保つためにはどうしたら良いか

調査内容

高齢者が運動機能の低下に気付いた時、どのような行動を開始しているのか

高齢者が向上させたい運動機能と、トレーニングにミスマッチが発生していないか

どこまでの運動機能があれば、一人の高齢者が不自由のない生活を送ることができるのか

フィジカル班の研究方法与フィールドワーク計画

➤ 研究方法

- ・ 先行研究の読み込み
- ・ ヒアリング調査

➤ フィールドワーク計画

- ・ 多摩市内の運動しているシニアへのヒアリング
- ・ ライザップ本社（東京都新宿区北新宿 2-2 1-1）
- ・ ライザップジム（ライザップ聖蹟桜ヶ丘店）

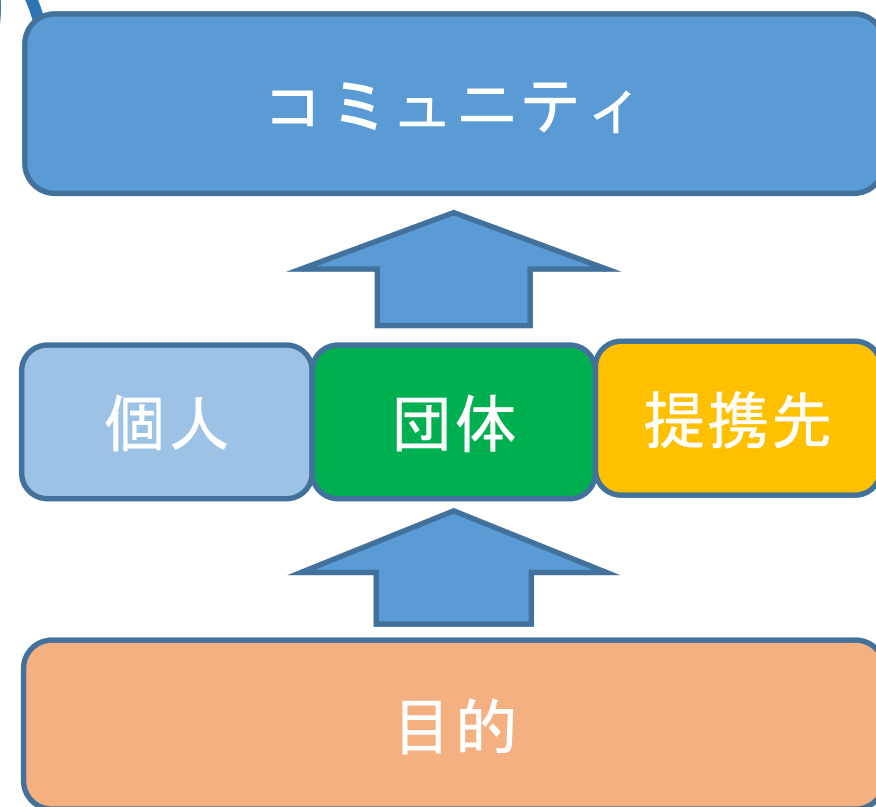
3. 視点 2: コミュニティの側面から

コミュニティ班のリサーチクエスト

持続可能なコミュニティはどのようにすれば作ることができるのか

超高齢社会を迎える現代では、シニアが社会との接点を持つためのコミュニティを作ることが重要だ。

コミュニティの活動目的、構造、作られた経緯を調査し、成功と失敗の要因を見つけ出すことで、持続可能なコミュニティはどのようにすれば作ることができるのかを研究する。



コミュニティ一班の研究方法与フィールドワーク計画

➤ 研究方法

- 先行研究の読み込み
- 先行事例の研究、見学
- 他機関との連携

東京大学高齢社会総合研究機構

一般社団法人Future Center Alliance Japan (FCAJ)

東京都健康長寿医療センター研究所

➤ フィールドワーク計画

- 鎌倉リビング・ラボ
- Share金沢

4. 視点3: ワークの側面から

ワーク班のリサーチクエッション

高学歴アクティブシニアが働きやすい就労環境とはどのようなものなのか

- ・ 就労環境の変化に伴い、シニアの労働力が注目される中、シニアは肉体的制約等を考慮して働かなければならないので、適切な就労環境を整える必要がある。また、若者世代とのシナジーをどう生み出すかも課題である。
- ・ 都市郊外型の高齢化モデルである多摩市も、高学歴アクティブシニアが活躍できる環境を整えることで、地域活性化のモデルを見出すことができるのではないか？

ワーク班の研究方法与フィールドワーク計画

➤ 研究方法

- ・ 文献調査も変化の激しい現代においては古い情報になってしまうので、なるべく生の情報である新聞やニュースで情報収集をする。
- ・ FWを実施し、統計データやリアルな情報を取り入れ、高齢者就労の実態を調査する。

➤ フィールドワーク計画

- ・ 株式会社キャリア
- ・ 多摩シルバー人材派遣センター
- ・ 多摩市役所健幸まちづくり課

5. 視点4: ファイナンスの側面から

ファイナンス班のリサーチクエッション

人生100年時代を生き抜くための 収支計画とはどうあるべきか

収

少子高齢化による社会保障費の上昇



年金給付年齢の引き上げや給付額の減額の可能性



一人ひとりが将来に備える必要性（いつから備えれば良いのか）

支

既に高齢者である方のお金の使い方



子孫に残すだけでなく、生きがいに繋がるお金の使い道があるので



は？

多摩地域に住むインテリジェントシニアへ新たなお金の使途を提言出来

ファイナンス班の研究方法与フィールドワーク計画

➤ 研究方法

- 先行研究の読み込み
- ヒアリング調査

➤ フィールドワーク計画

フィールドワーク先の候補

- ・ 野村アセットマネジメント株式会社 野村資本市場研究所
- ・ 慶應義塾大学 ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター

6. 今後のスケジュールとまとめ

今後のスケジュール

今後のスケジュール概要



各自テーマに基づき、研究対象への調査依頼を行う

多摩学2018の研究計画まとめ

100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件

フィジカル=健康面と体力面をどう保つか

コミュニティ=続ける持続可能なコミュニティ作成

ワーク=高学歴アクティブシニアの活躍のできる環境のあり方

ファイナンス=100年時代を生き抜くための収支計画の設定

7. 文献リスト

ジェロントロジーの領域は環境変化が激しい為、書籍のみならず、各種最新レポートや記事等の調査による研究を深める

N	Issue			
1	IOG	2009	2010/3	IOG
2			2010/4	
3	IOG	2010	2011/3	IOG
4	IOG	2011	2012/3	IOG
5		()	2012/4	FRI
6			2013/12	IOG
7			2013/12	
8	IOG	2012-2013	2014/3	IOG
9		75	2014/9	NIRA
10			2015/1	NIRA
11			2015/2	IOG
12			2015/3	FRI
13		No.9	2015/3	NIRA
14	Web		2015/3	
15			2015/5	IN
16			2015/8	
17		NIRA No.18	2015/10	NIRA
18		No.20	2016/2	NIRA
19	RISTEX		2016/3	JST
20	IOG		2016/3	IOG
21		WP-06	2016/10	SP
22		Ver.2	2016/10	SP
23		LIFE SHIFT	2016/10	
24		100	2017/2	

N	Issue			
25	IOG		2017/3	
26			2017/4	
27		10	2017/4	SP
28		10	2017/5	SP
29	Web		2017/6	SP
30		10	2017/6	SP
31	Web		2017/9	SP
32		10	2017/9	SP
33	IOG		2017/11	IOG
34			2017/12	
35	Web		2017/12	SP
36	IOG		2018/4	IOG
37	Web		2018/4	
38	Web		2018/4	
39	Web	100	2018/4	
40			2018/5	
41		2017	2018/5	
42			2018/5	